



2015 Winter vol.31

SEASON



写真：第10回読書展の風景

ISSN 1349-3760



自身の若い時代の「読書ノート」のこと
教育学部教授 西 穰司



使ってますか？図書館の学習スペース



SRP 主催 第10回読書展を開催！



図書館書簡



図書紹介



西 穰司

教育学部教授

私は、大学において教育学（限定的には教育経営学）という分野を担当する教員として、これまですでに37年余の経験を積み重ねてきた。率直なところ、主観的にはこれまで三つの大学でそれぞれ期待された職務を概ね真面目に遂行し、その報酬としていただく給与分に相当する実績を残せてきたのではないかと考える。

このような、大学・大学院での教育学関連の授業科目担当教員としての仕事柄、読書は私にとって不可欠な日常的営みであつ

た。しかし、自身の大学教員としての職務遂行に直接関わらないものの、一人の人間ないし市民としての生き方においても、読書にはやはり重要な効用があるように思われる。その一つは、自身の人生を豊かにしてくれる効用であり、とりわけ自身の専門分野とは異なる分野・性格の読書の効用が貴重である。私の場合、この効用をもつ読書分野は、宗教学・哲学・歴史学などである。

もう一つの読書の効用としては、純粋に自身の興味・趣味・関心に沿い、楽しく豊かな気分を味わえることを挙げるができる。ただし、私自身はこのような効用をもたらしてくれる読書に、多大な経済的・時間的配慮をしてきたという自覚はない。その意味では、私自身はおよそ「仕事一筋の生真

面目人間」であつたと認識している。

ところで、このたび「読書」についての所見を記した文章を寄せるよう依頼を受け、自身の68年余の人生を振り返る心境になり、自宅書斎の隅に隠れていた「読書ノート」というタイトルのB5判ファイルを開いてみた。このファイルは、私の学部生時代に作成したもので、自身の読書傾向や生き方の選択に強く影響したと思われる三つのことを思い浮かばせてくれた。

第一に、このファイル「読書ノート」（自筆・横書きで全165頁）は、およそ学部1年生の夏頃から4年生の秋頃までの自身の読書についての断片的記録に過ぎないのであるが、次のような特徴が認められた。この

ノートに取り上げられている書籍の対象範囲は、当時教育学部教育学科に所属し、卒業後には中学が高校の国語科教員になることを志望していた問題関心を反映して、やはり教育学分野や日本社会の歴史的特性等を対象とした書籍がほとんどであつた。このノートには、これらの書籍の中から自身が大いに刺激を受けた見解や、味読みたいと思う各書籍の中の文章を、原文のまま抜き書きしている。ただし、その量は半頁程度のものから、4―5頁のものまでさまざまである。

第二に、この読書ノートの作成方法について、残念ながら一貫した方針や記録すべき基本事項等が不明瞭であつた。この点については、後に自身が大学院（修士・博士課程）へ進学し、さらには29歳で大学教員の職に就いてその職業的役割に伴う読書経験を蓄積する段階と比較すると、杜撰で大まか過ぎる読書ノートであつたと言わざるをえない。というのは、著者名・題目・出版社・出版年等はほぼ記述されているが、借りた図書館名や当該書籍の分類ラベルの

番号等が無記入であつたり、それなりに感動したり刺激となつた箇所の数に記入されていなかったりしている。また、各書籍の著者自身や全体的特徴・性格についての言及がほとんど記述されていないのである。つまり、大雑把で掴み所がない読書記録になつており、当時の私自身の学生生活振りを反映していたように思われた。

第三に、この読書ノートについて非常に不思議な感覚を抱いたのは、3箇所各テーマに関係する発展的書籍の著者名・タイトル等のリストが含まれていた点である。おそらくは、私がある書籍に出会い、その書籍を契機にしてどのような課題に関心を抱き、自身でその後どのように取り組もうとしたかが、このリストから一定程度推量できるのである。

以上の3点にわたる特徴が認められる、たいへん不十分な内容の自分の若い時代の読書記録のことを臆面もなく述べたのは、他でもない創価大学の学

生各位にご自身の今後の個性的な生き方に確かにつながる豊かな読書経験の基礎を築いてほしいと考えたからである。私という、ごく平凡な一大学教員の長い人生経験においても、やはり若い時代の未熟で荒削りな思索や自己修練であつても、その率直な文字に記された記録には、その人にとっての格別の意味が含まれていると思うからである。

西 穰司 教育学部教授

主な経歴

1990年～1991年ケンブリッジ大学教育大学院客員研究員
主な研究テーマ

学校経営の理論と方法、各学校の教育課程経営の原則と展開方法、教師の職能発達の理論と方法

SRP主催 第10回読書展を開催!

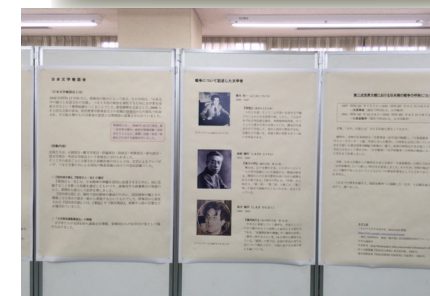


10月11・12日の創大祭期間中、中央図書館では毎年恒例となったSRP (Soka Reading Project) 主催による読書展を開催しました。

1階では「読書について考える」と題し、読書をするることによってどのような効果が期待できるのかという研究発表を展示しました。読書にはストレス解消効果があるというサセックス大学の研究成果を紹介したほか、偉人の人生を追体験できるなど見識や価値観を広げる効果、庶

民の娯楽として長きに渡って親しまれてきた事実等、様々な切り口から読書の魅力を伝え、さらに現実世界に役立てるための考察を手作りパネルで発表しました。

2階では今回の読書展のテーマである「読書のちから」を展示。今年には戦後70周年という節目であることに注目して「欲しがりません、勝つまでは」「贅沢は敵だ」などの有名な標語が生まれた背景や、戦時下の教科書の内容を紹介。また、思想、言論統制が厳しく戦争に肯定的な内容しか書けなかった戦時中でも、プロレタリアート文学界では反戦作品が数多く作られていたことや、戦後の反戦作品などを紹介し、文字の持つ力が戦時中の社会に与えた様々な



影響について学べる内容としました。展示をご覧になられた方からは「平和を築くために、良書の存在がいかに大切か改めて感じた」「戦争時の文学について知ることができ心を動かされた」などのお声をいただきました。

これらの展示のほかにも、創立者の著作に関するコーナーや、館内の中の一節を展示。多くの方々にご覧いただくことができました。



図書紹介 「創大蔵書第1号」

現在100万冊の蔵書を誇る創価大学図書館。今回の「図書紹介」では、その源となる創大蔵書第1号の図書を紹介します。

『思想の歴史(第1巻)／ギリシャの詩と哲学』
田中美知太郎編：平凡社／1965.4

「この本は昭和45年初夏、文系校舎がまだ灰色のコンクリートの外装を見せていた頃、図書館準備棟(現松風センター建設用地の位置)に入ってきたものです。(中略)文系校舎B1の図書室で晴れの開学を迎えました。(後略)」

SCL 第1号より

創価大学の歴史を知るこの図書は、現在、中央図書館閉架書庫2階(請求記号:108/Sh92/1)に配架されています。閲覧や貸出が可能ですので、書庫の入庫資格の無い方も、蔵書検索システムで出庫依頼をして書庫利用カウンターにお越しください。

一人で集中したいときは
4F 個人閲覧室



4階には9部屋の個人学習室があります。ご利用は一人一日3時間まで。利用時に学生証をお預かりします。予約は受け付けていないので、席が空いていない場合はお待ちいただくこととなります。なお、4階はペットボトルや水筒などの密閉できる容器からの水分補給ができます。

会話	利用人数	最大利用時間
—	1	3 h
飲食	予約	利用申請
▲ ペットボトルや水筒は可	×	要



中央図書館での新しい学びの形
ラーニング・コモンズ

1階閲覧室にSPACEと同様な機能を持つラーニング・コモンズを設置しています。図書館の資料、施設をもとに、協同学習、ITを活用した学習が行える総合的な学習環境で、グループでのディスカッションや友達との教え合いなど、これまでの「しわぶき一つない図書館」のイメージとは違い、会話しながらの学習が可能な場所となっています。

ミーティング、ディベート、ディスカッションの3つのスポットは利用申請が必要ですが、中央より並んでいる円卓のスペースや奥のファミレス型のテーブル席はいつでも自由にご利用いただけます。

また大学院のTA（ティーチング・アシスタント）がレポート指導もしてくれます。

会話	利用人数	最大利用時間
○	2～	3 h
飲食	予約	利用申請
×	×	▲ 申請者優先

注意!
ラーニング・コモンズでは会話しながらのグループ学習はできますが、雑談や私語、飲食は慎むようお願いいたします。電話での会話も禁止です。

使えますか? **中央図書館の学習スペース**

皆さん、中央図書館の学習スペースを利用したことはありますか。一人で静かに集中したいとき。ゼミなどグループでディスカッションしたいとき。クラブでミーティングしたいとき……。そんなときは是非中央図書館を活用してください！今回は主な学習スペース3つ+1を紹介します。

図書館で一番人気のスポットといえばブラウジングルームではないでしょうか。座り心地の良いソファでコーヒーを飲みながら雑誌をめくる。そんなくつろげる場所ですが、グループ学習もできるのをご存知でしょうか。ブラウジングルームの長机のコーナーにはホワイトボードが置かれていて、協同学習やミーティングなどに自由に使用いただけます。ブラウジングルームは飲食もOK。気軽にディスカッションしたいときは、このスペースをご利用ください。

会話	利用人数	最大利用時間
○	—	—
飲食	予約	利用申請
○	—	—

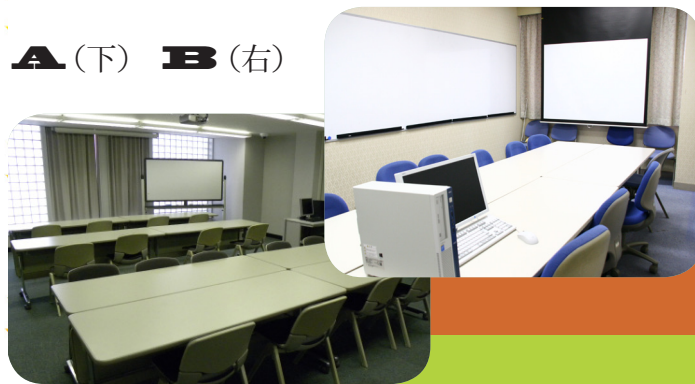


2階と4階にはグループ学習室があります。こちらは2週間先までの予約が可能です。

予約したい場合は1階カウンターへグループの代表の方が申請にお越しください。その際に利用許可証をお渡しします。代表者が利用当日に、許可証と学生証を1階カウンターまでお持ちください。なお、予約申請時や当日の利用受付時に代表者に8日以上前の圖書の延滞があるご利用できないので気を付けてください。

利用人数は3名から。2階は最大12人。4階は24人の収容人数となっています。ホワイトボードやプロジェクターも備え付けてあります。

会話	利用人数	最大利用時間
○	3～	5 h
飲食	予約	利用申請
×	○	要



番外編 飲食しながら気軽に
2F ブラウジングルーム

グループ学習のスタンダード
グループ学習室 A・B

開館日程

通常開館時間 8:30-21:00

→10:00-19:00
→10:00-17:00
→9:00-21:00
→休館日

12 December.							1 January.							2 February.							
S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S	
			1	2	3	4	5						1	2		1	2	3	4	5	6
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	28	29						
							31														

2015年・第69回読書週間
10月27日から11月9日まで

読書週間



今回の標語は『いつだって、読書日和』

読書週間とは、終戦の2年後の1947年（昭和22年）、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、さらに新聞・放送のマスコミ機関の協力のもとに、第1回「読書週間」が開催されました。

いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことは変わりありません。暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれていきませんか。

中学生職場体験報告



中央図書館で石川中学校（9/15～17）、甲ノ原中学校（10/27～29）の職場体験が行なわれました。カウンターで行う図書の貸出返却業務だけでなく、返却された図書をきちんと書棚に戻す配架という作業や、図書館に来た図書に透明なカバーをかけるなどの、装備という業務のお手伝いもしていただきました。今回は配架作業を主に行って頂きましたが、とても意欲的に取り組む姿にスタッフも心が温まりました。貸し出しなどの際にあたたかく見守っていただき、ご協力ありがとうございました。